

PC グラウト用高性能混和剤 パリックG

1. 概要

わが国のプレストレストコンクリート技術もプレテンション時代からポストテンション時代へ移行するに従い、各種工法の導入開発が活発に行われ、最近では大型化かつ多様化したプレストレストコンクリートが施工されるようになってきた。

このようなプレストレストコンクリート技術の高度化に伴って、グラウトに使用される混和剤も高性能のものが求められている。

パリックGおよびF-1550（膨張剤）は、高性能タイプの混和剤で、高温、低温にかかわらず、流動性の増大および維持、ブリージングの抑制、適度な膨張性などグラウトの諸性質を著しく改善するものである。

2. パリックGおよびF-1550の成分と性状

パリックGは、アリアルスルホネートを主成分と

した液状品で、容易に添加混合できる。

F-1550は、アルミ粉を主体にした粉状の膨張剤で、混練り量に合わせ小包装にしてある。

3. パリックGおよびF-1550の特長

- 1) パリックGは液体のため、グラウトの均一混合が容易である。
- 2) パリックGは、グラウトの流動性を大幅に増大し、かつ持続するので、従来のグラウトよりもW/Cを5~10%小さくできる。
- 3) 適度な膨張発現を示し、ブリージングを著しく減少する。
- 4) 凝結が適度に遅延し、グラウトの強度を増大する。

(1) 流動性

グラウトフロー経時変化を図-1に示す。

(2) ブリージング

パリックG混和グラウトのブリージングに及ぼす

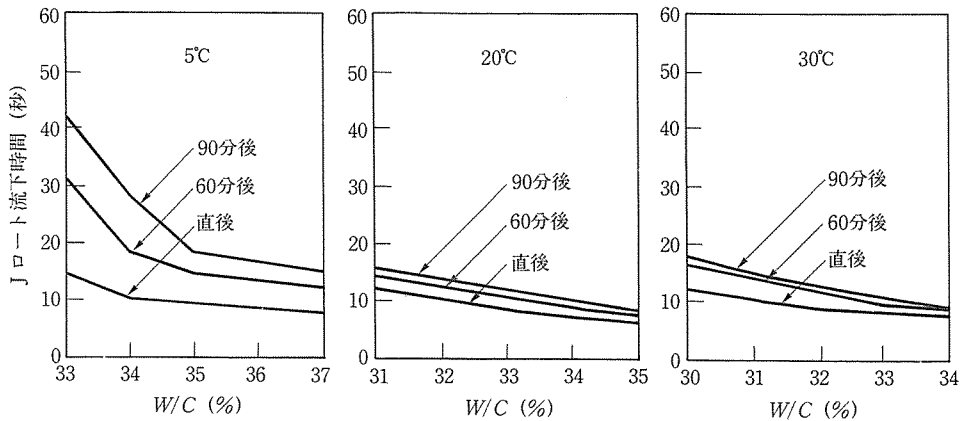


図-1 グラウトフロー経時変化

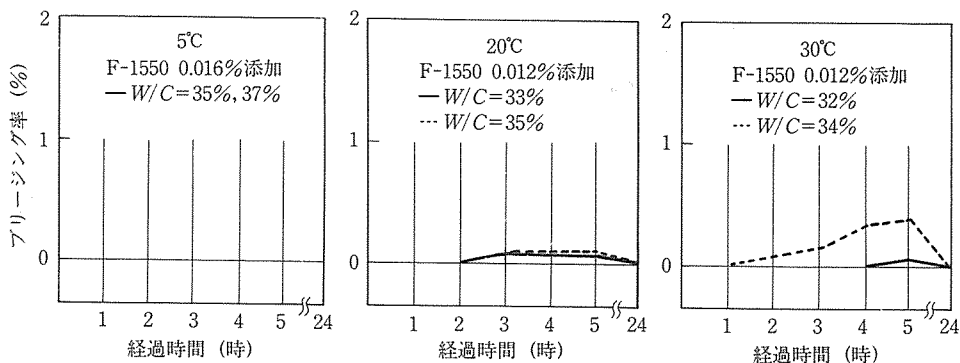


図-2 パリックG混和グラウトのブリージングに及ぼす W/C および温度の影響

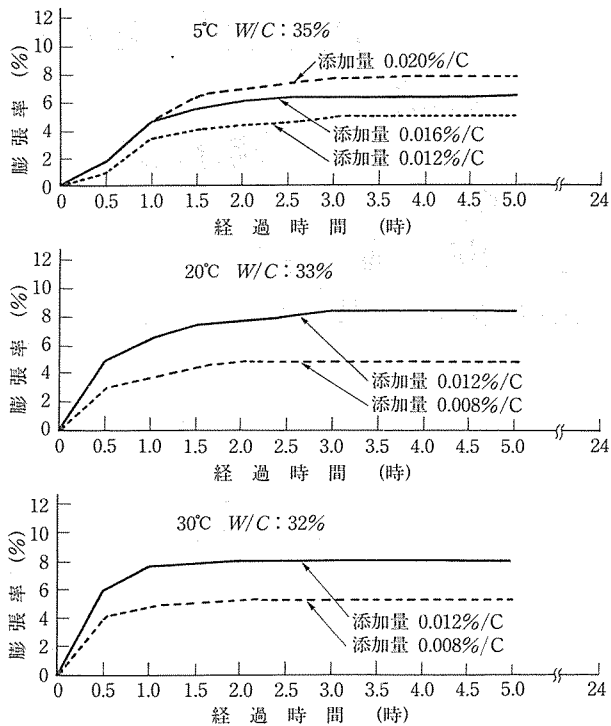


図-3 パリックG混和グラウトの膨張性状に及ぼすF-1550添加量および温度の影響
(混練り後のJロート流下時間：9～10秒)

W/Cおよび温度の影響を図-2に示す。

(3) 膨張率

パリックG混和グラウトの膨張性状に及ぼすF-1550添加量および温度の影響を図-3に示す。

表-1 温度と凝結の関係

種類	凝結(時:分)	温度		
		5°C	20°C	30°C
プレーン	始 発	12:30	5:05	2:40
	終 結	15:50	7:00	3:50
パリックG	始 発	18:00	14:20	7:05
	終 結	21:30	16:20	8:15

表-2 温度別圧縮強度

温度	W/C	圧縮強度 (kgf/cm ²)		
		3日	7日	28日
5°C	35%	76	166	249
20°C	33%	192	245	325
30°C	32%	286	335	392

(4) 凝結時間

温度と凝結の関係を表-1に示す。

(5) 圧縮強度

温度別圧縮強度を表-2に示す。

問 合 せ 先

藤沢薬品工業(株) 特薬事業部

〒103 東京都中央区日本橋本町3-4-6

TEL 03-3279-0648